
simo-//Akkord:Bsusvier- フォルテシモアコルトビーサスフィーア

コアス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

f o l t i s s i m o - / / A k k o r d · B s u s v i e r -

フォルテシモアコルトビーサスフイーハ

【Zコード】

Z 8 3 5 2 M

【作者名】

コアス

【あらすじ】

詳しくはこのサイトで <http://lacryma.info/fortissimotop.php>

「ハジマリ」

「もうすぐ帰省するからな
「ホント？ 兄さん私待ってるからね
「ああ、紗雪ありがとうな。それじゃ
俺は芳乃零一。今義妹の黒羽紗雪と故郷月読島に帰省するため待ち
合せの電話をしていた。いい思い出があるわけではないむしろ良
くない思い出の方が多い。月読島は「マホウツカイ」と呼ばれる者
がいるといわれている伝説がある。俺と紗雪の両親はこのマホウツ
カイをよめぐる戦争に巻き込まれ亡くなつた……帰省～
「兄さんお帰りなさい
「紗雪久しぶりだな
「零一帰つてきたのか
「皇樹じやないかほんと久しぶりだ
「ゴイツは皇樹龍一俺の親友だ。
「私もいるよ
「誰でしたっけ？」
「私だよーなぎさだよー
「あつ・・鈴白か。や本当に誰か分かんなかつた
鈴白なぎさは俺と龍一の幼馴染で龍一と同じ剣道部のメンバーだ。
「もうー」
「「めん」「めん」
「一スマン零一急用ができた。オイ鈴白いくぞ
「あつ、うん
「なんだ？」
大慌てで龍一達は走り去つていった。
「私達は墓参りいこ
「そうだな
（墓参りした後）

「兄さんうちへ帰ろ!」

「悪い紗雪先に帰つてくれ。俺は行きたい所がある」

「私もついていこうか?」

「悪いが一人で行きたいんだ」

「そう・・・じゃあね」

残念そうに紗雪はうつむいたがすぐに普段に戻る。

そして俺は一番の思い出があるある場所へと向かう。それは・・・

「変わらないなココだけは」

この島の中央、シンボル大きな桜の木。

「なにかココであったような・・・」

俺はなにかひつかかった氣がしてならなく漫つて見上げていると・・・

「お前・・・マホウツカイだな?」

「はっ!?誰だ!?」

木上に影が、何者かがいた。

「俺か?俺様は轟木鋼様だあー!世露死苦!ヒヤッハハー!覚悟しやがれやあー!きやがれ俺様のマホウ、エッケザックスウー!
ザドン!」

「うわっ!?危ないじゃないか!」

マホウだつて!/?ほんとうに存在してたのか。

「オラオラオラー!どうじたどうじたどうじたどうじたあー!」

「うわあー!」

「ココで・・・俺は死ぬのかよ・・・もう黙日かと思つたその時・・・

・
シユル!バチン!

「んあつつ!/?俺様の攻撃を受け止めやがった!?」

「!?

目の前に女性が鞭のようなロープを持って奴の攻撃を受け止めていた。

「テメエ・・・ナニモンだあ?」

「あなたなんかに名乗りたくないわ

「女だからってナメてつと！」

「そんなにうたれたいのね。零一早く覚醒しなさいー！」

「えつー！？」

「なんで俺の名前を知つているんだ！？」

「戦闘中にじーちゃんやじーちゃんや言つてんじゃねええええっ！んなこたあ

知つたこつちゃねえんだよ、ボケがつ！」

「早く！これ以上は抑え切れない」

「そんなこと言われたつてどうすれば・・・」

「レイジ・・・私を呼んで」

突然頭の中に声が響いてきた。この感覚、この声、・・・俺は・・・

知つている！

「サクラー！」

「なにいーーー？」

「そうよ・・・」

桜色の閃光に包まれその子は姿を現す。

「人型戦略破壊魔法兵器だとおーーー！？だが必いー殺うーー「すんげえ強ええ重力」[△]「グラビトンプレス」！ー」

「うわ！」

重力コントロールか！

「大丈夫だよレイジは私が守つてあげるから・・・。「穢れなき桜光の聖剣」[△]「レーヴァテイン」！ー」

「なにいーーー？」

「はあつー！」

俺はマホウを使ってみる。

「えつー！？龍一と鈴白ーー？なんで」

「あれーー？」

なぜか二人が現れた。ということは二人も・・・。

「零一お前もマホウツカイだったのか。俺達はお前のマホウによつて「」に呼び出されたようだ」

「えつ！？それはどうこう……」

「龍一 Side~

「話は後だ。『パイルバンカーガントレット』装備！『雷光を打ち碎くもの』『イルアン・グライベル』……」

「なぎさ Side~

「お願い、スウェアフルラーメ……私に力を貸してっ！ただ、大切な友を守る為に……いきます！『黄金色の聖約』『テイルヴィング』……」

二人の姿が変わる。龍一はファイター、鈴白は女王に。

「チツ！マホウツカイが一気に4人も出てきやがった……プロテクト！」

「うおおーー！」

「はあつーー！」

「いつけえーー！」

「ぐう・・・抑え切れねえか・・・！」はひとまず退散するぜい

（その後）

「なあ、アンタは一体何者なんだ？」

「私は『13番目』のマホウツカイ、ワルキューレ。覚えていて頂戴

「あ、待て！」

彼女はほとんど真実を話さずに去っていった。

「バトルロワイアルの開幕だ」

「そうみたいね・・・」

続

「ハジマコ」（後書き）

新作ゲームをノベル化してみました。本当の本編は違うかもしね
いんで、「了承を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8352m/>

foltissimo-//Akkord:Bsusvier- フォルテシモアコルトビーサスフィーア

2010年11月1日23時58分発行